

環境問題キーワード解説

藤田 八暉
久留米市環境審議会会長
久留米大学名誉教授

第10回 カーボンプライシング

政府は2050年に国内の二酸化炭素（CO₂）排出量を実質ゼロにする「カーボンニュートラル」の達成を目指して、産業革命以来の化石燃料中心の経済・社会、産業構造をグリーンエネルギー中心に移行させるグリーントランスフォーメーション（GX）を実行すべく、2022年7月に「GX 実行会議（議長・岸田文雄首相）」を設置し、必要な施策を検討して来ました。

2022年12月22日に、第5回「GX 実行会議」を開催し、「GX 実現に向けた基本方針-今後10年を見据えたロードマップ-」をとりまとめました。2023年1月22日まで意見募集が実施され、今後、閣議決定を目指すとともに、通常国会に関連法案を提出することとしています。

基本方針では、「エネルギー安定供給の確保を大前提としたGXに向けた脱炭素の取組」、「成長志向型カーボンプライシング構想の実現・実行」などについて、基本的な考え方と今後の具体的な対応などを提示しています。

環境省は、2023年1月24日に「2030年目標、2050年カーボンニュートラルの実現に向けた成長志向型カーボンプライシング構想について」を取りまとめています。

カーボンプライシングは、世界では珍しい制度ではなくなりましたが、日本でもようやく、成長志向型カーボンプライシングが実現・実行されることとなります。

カーボンプライシング（CP）とは

カーボンプライシング（CP）とは、その名の通りカーボン（二酸化炭素：CO₂）をプライシング（価格を付ける）することです。排出されたCO₂量に応じて、企業などに金銭的負担を求めます。

CO₂排出量に金銭的負担という明確な基準を加えるカーボンプライシングの果たす役割は大きいと言えます。

カーボンプライシングによって、これまで義務付けがなかったCO₂の削減目標に強制力を持たせることができます。

カーボンプライシング導入状況

フィンランドが世界で初めて炭素税を導入し、その後EU加盟国を中心に広がりました。日本においては、地球温暖化対策のための税（以下「地球温暖化対策税」という）の導入などカーボンプライシングの取組があるもののまだ十分ではありません。

世界銀行（World Bank）の調査によれば、2022年4月現在、68か国でカーボンプライシング制度が運用されています（炭素税36件、排出量取引制度32件）。これらの制度で世界全体の温室効果ガス排出量の約23%をカバーしています（CO₂換算）。

カーボンプライシングの制度

カーボンプライシングのための仕組みには、炭素税と排出量取引制度などがあります。それぞれの制度について内容と問題点、日本での導入状況は次のようです。

● 炭素税

二酸化炭素の排出量に応じて、企業などに税金を課す制度です。石油や石炭、天然ガスなどの化石燃料が対象となります。

この制度は、企業から見た場合、炭素価格が固定されるため費用の見通しが立てやすくメリットの大きい仕組みです。しかし、国全体で見た場合は、企業の炭素税への対応について確実な予測ができないため、排出削減量についての見通しが立て難いというデメリットもあります。

日本では、炭素税の仕組みを取り入れた「地球温暖化対策税」が2012年から導入されています。税額は、CO₂排出1トン当たり289円です。ガソリンで換算すると、1リットル当たり約0.7円となります。ただし、この価格はカーボンプライシングの効果を発揮するのに十分ではありません。

● 排出量取引制度

炭素税では、炭素の価格を固定しているのに対し、排出量取引制度では、排出量を固定します。政府が排出枠を設定し、企業はその枠を超えないように留意して事業活動を行います。排出量が超過した場合は、枠が余っている企業からその枠を買い取り調整することも可能です。

排出量取引制度と似た制度としてカーボンオフセットがありますが、排出量取引制度においては枠を超過してはならないという強制力があるのに対し、カーボンオフセットにはそのような強制力はありません。カーボンオフセットとは、排出されたCO₂を別の場所での削減・吸収活動によって相殺しようとするものです。

GX 実行会議のカーボンプライシングの基本方針

脱炭素社会に向けた戦略を話し合う「GX 実行会議」で、「カーボンプライシング」の基本方針が示され、海外と比べて後れをとっていたカーボンプライシング導入がようやく始まりますが、カーボンプライシングの本格導入を「2030年以降」とし、経済への悪影響を考慮して、はじめは負担額を低く抑え、段階的に引き上げるとしています。このペースだと「2030年度に2013年度比46%排出削減」の目標の達成に貢献出来るのが問われそうです。

カーボンニュートラルの達成にはカーボンプライシングの本格的な導入が不可欠と考えます。